

鶏肉情勢

令和4年7月8日 更新

全農チキンフーズ㈱

項目	内容
供給	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和4年5月末実施)によると5月の推計実績は処理羽数62,997千羽(前年比103.4%)・処理重量186.1千ト(同100.1%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は2.8%上方修正され、処理重量は1.4%上方修正となっている。処理羽数が増加しているのに対して処理重量は前年並みであったことから、コロナウイルス感染による稼働日減などの影響からの回復や、日齢や給餌量を調整し産肉量に対して飼料の消費量を抑えたことが推察される。 (2) 6月の処理羽数は前年を上回る見通しだが、処理重量が前年を下回る見通しとなる。地区別で見ると北海道・東北・関東地区で処理重量が前年を大幅に下回っており、高騰する飼料の使用を控えるため出荷日齢を早め増体を抑えていることが考えられる。7月については処理羽数・処理重量共に前年を下回っている。一部工場では海外技能実習生の入国が再開されつつあると聞かれるが、人数が完全に回復するのは当分先のような。加工品(手羽中・二ツ割・砂肝・スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の調整が今後も見込まれる。
	2. 輸入 (1) 財務省6月29日公表の貿易統計によると令和4年5月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から1.1千ト減の42.5千トで、国別ではブラジルが+1.7千ト、タイが▲2.8千トとなっている。前年同月の実績に対しては3.7千ト減となった。現地工場の作業員不足等が影響し、タイ産の価格が高騰したことなどで輸入量が減少したと考えられる。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、6月が47.6千ト(前年比111.2%)、7月が45.3千ト(前年比101.2%)となっている。5月実績より徐々に輸入量は増加しており、国内の夕食・中食・総菜向け需要が強まっていることから買い付けが増加傾向にあるようだ。物流費・人件費・資材費等の世界的なコストの高騰等をきっかけに、夕食・中食の一部では国産鶏肉へ切り替えたり、輸入鶏肉と国産鶏肉を併用する動きが見られ、今後も国内および海外市況を見ながら輸入量は変動することが予想される。ブラジル現地では中東・韓国などからの引き合いが強くなっているとの情報もあり、円安も影響し安価で輸入することが厳しい状況は続きそうだ。 (2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から2.0千ト減の42.1千トで、国別では中国が+0.2千ト、タイが▲2.2千トとなった。前年同月の実績に対しては6.1千ト増となった。前年同月と比較すると極端に増加しているように見えるが、これは昨年からコロナ禍の影響で輸入量が極端に減少していたためだ。前述の世界的なコストアップにより価格が高騰している影響で、前月から数量は減少したと考えられる。ただし、国内の夕食・中食・総菜向け等の引き合いは強いため今後の動向に注視したい。 (3) 財務省が6月29日に公表した貿易統計によると5月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より49.3%上昇し、鶏肉調整品は前年同月より18.5%上昇した。依然として、前述の世界的なコストアップや為替相場の円安により高値が続いており、ブラジル産の価格が268円/kg(前月比8円高)、タイ産が415円/kg(同30円高)となっている。一時、ブラジル産の価格が落ち着くとされていたが、実際は世界的なコスト高の影響もあり価格が上昇している。タイ産については1.5次加工やサイジング、検品強化を行ったムネ肉を中心に輸入されているが、EU圏がウクライナ産鶏肉の代替としてタイ産のムネ肉を集めているとの情報も聞かれるため、加工筋向けに国内へ輸入されるムネ肉については暫く高値が続きそうだ。国産鶏肉への影響に注視したい。
	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和4年5月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比96.2%の4.2千トとなった。うち国内品は同107.5%の3.6千トと前年を上回り、輸入品については同61.1%の0.6千トと前年を下回った。
在庫	1. 令和4年5月(2022年5月) (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推計期末在庫では国産31.2千ト(前年比95.1%・前月差▲0.1千ト)、輸入品115.7千ト(同89.4%・同▲0.6千ト)と合計で146.9千ト(同90.6%・同▲0.7千ト)となった。
	2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表(令和4年7月6日更新)では、5月の出回り量は国産138.9千ト(前年比101.7%・前月差▲3.3千ト)、輸入品43.1千ト(同92.5%・同▲9.3千ト)と合計で182.0千ト(同99.4%・同▲12.6千ト)となった。6月以降の国産在庫については、競合する輸入鶏肉の高騰等から消化が進みそうだ。6~7月の輸入鶏肉の入荷量は前述の(独)農畜産業振興機構(ALIC)予測でもあるように増加する見通しであることから、一時的に輸入品の在庫が増加する可能性はあるが、国内の夕食・総菜向け等の引き合いが強いこと等から、輸入品在庫は減少していくと予想する。
相場	1. 令和4年6月動向 (1) 令和4年6月の月平均相場は、モモ肉624円/kg(前月差±0円)・ムネ肉326円/kg(同+5円)正肉合計で950円/2kgと前月を5円上回り、前年同月を23円上回った。モモ肉相場は月初618円、月末は627円となった。(昨年は月初646円、月末618円で28円の下げ)。昨年の相場より単価は下回ったものの、今年は上げ基調になっている。要因としては牛・豚等と比較すると割安なため消費者が鶏メニューを選択する機会が増えていることや、小口の中食・夕食向けの販売が増加している影響が考えられる。また、生産状況も各社で異なり、増体が伸びず在庫がタイトだった販売会社も聞かれるため、供給量が減少し需給が締まったのではないだろうか。ムネ肉相場は、輸入品価格の高騰等から加工向けの引き合いが依然強く、競合する輸入鶏肉の在庫水準が低いことも相まって、前月から5円の上げとなった。供給量が減少する中、加工メーカーとの定期取引等から在庫量自体が薄く、安価で国産ムネ肉を集荷することは非常に厳しい。
	2. 見通し (1) 7月の生産量は、猛暑による増体悪化により減少する可能性がある。また、コロナ禍による工場稼働への影響も懸念される。一方需要面では、あらゆる食料品が値上げされている中で節約志向が高まり、安価な鶏肉へ需要が集中する可能性がある。しかし、気象庁発表の「向こう1か月の天候の見通し(7月)」によると、7月上旬から中旬の気温は全国的に高い予測となっており、下旬は平年並みか平年よりも高くなる予測となっていることから、猛暑による食肉需要自体の減衰も考えられる。他方、夕食の消費が増えることが予想されるが、夕食で主に使用される輸入鶏肉の価格が高騰しており、下がる要素が見つからない。国産鶏肉へ一部シフトすることも考えられ、問い合わせも増えている。以上から、モモ肉相場は猛暑による食肉需要自体の減衰も考慮し、6月よりやや下げの月平均615円前後と予測する。ムネ肉相場は加工原料としての引き合いが強く、競合する輸入鶏肉の高騰から、上げの月平均340円と予測する。 (2) 直近の販売状況は、モモ肉の凍結を回避するために量販店への特売等で生鮮品を消化する動きが一部見られる。しかし、生産量の減や年末用の凍結モモ肉・骨付きモモ肉の確保、輸入品高騰から国産鶏肉への切り替えを行っている夕食への対応もあるため、モモ肉の荷動きは販売会社各社で濃淡がある。鶏肉に限らず輸入食肉全般の価格が高騰していることから量販店は特売を打ちづらく、苦慮していると聞かれる。一般家庭では暑さにより火を使った調理を避ける傾向があることから、総菜・中食・加工筋向けの動きが良くなる可能性はあるが安価な原料を集荷することは難しい。食品に係る業種全般に言えるが、世界的なコスト高もあるため価格転嫁を避けることは難しい。様々な食品の販売状況を確認しながら集荷・販売をしていく必要があるだろう。

実績

生産状況

単位:千羽、千トン、%

	R4年5月推計実績		R4年6月計画		R4年7月計画		R4年8月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	62,999	101.1%	60,989	101.0%	63,636	99.6%	65,548	100.1%
処理羽数	62,997	103.4%	60,467	100.5%	59,079	98.5%	59,733	103.1%
処理重量	186.1	100.1%	180.9	99.1%	173.8	96.7%	175.8	102.5%

※参考資料: (株)全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向

単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R3年12月	60.7	42.7	142.1	48.2	44.1	109.2	108.9	86.8	125.4	55.7	44.3
R3年累計	595.8	535.0	111.4	481.0	469.5	102.5	1,076.8	1,004.5	107.2	55.3	44.7
R4年1月	53.8	48.9	109.9	43.2	33.7	128.3	97.0	82.6	117.4	55.5	44.5
R4年2月	49.6	45.5	108.9	38.8	34.2	113.3	88.4	79.8	110.8	56.1	43.9
R4年3月	45.1	55.6	81.1	47.8	43.9	108.7	92.9	99.5	93.3	48.6	51.4
R4年4月	43.6	50.2	86.9	44.1	45.8	96.3	87.7	96.0	91.4	49.7	50.3
R4年5月	42.5	46.2	91.9	42.1	36.0	117.1	84.6	82.2	102.9	50.2	49.8

※参考資料: 財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向

単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R3年12月	1,695	1,839	92.2	1,702	1,763	96.5
R3年平均	1,526	1,565	97.5	1,410	1,440	97.9
R4年1月	1,563	1,582	98.8	1,450	1,469	98.7
R4年2月	1,483	1,428	103.9	1,404	1,359	103.3
R4年3月	1,550	1,528	101.4	1,439	1,406	102.3
R4年4月	1,512	1,556	97.2	1,368	1,384	98.8
R4年5月	1,476	1,527	96.7	1,403	1,426	98.4

※参考資料: 総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

相場(年別・暦年)

単位:円

	モモ肉	ムネ肉	計
H26年	626	294	920
H27年	639	336	975
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883
R3年	641	313	954

在庫状況(推定)

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R3年12月	35.5	26.8	132.2	114.4	124.3	92.1	149.9	151.1	99.2
R4年1月	35.1	26.5	132.4	123.2	129.5	95.1	158.3	156.0	101.5
R4年2月	33.9	27.5	123.2	129.3	129.7	99.7	163.2	157.2	103.8
R4年3月	32.5	28.8	112.9	125.2	135.0	92.7	157.7	163.8	96.2
R4年4月	31.3	31.7	99.0	116.3	129.8	89.6	147.6	161.4	91.5
R4年5月	31.2	32.8	95.1	115.7	129.4	89.4	146.9	162.2	90.6

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別)

単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年2月	646	701	92.2	323	305	105.9	969	1,006	96.3
R4年3月	631	691	91.3	316	304	103.9	947	995	95.2
R4年4月	622	678	91.7	315	305	103.3	937	983	95.3
R4年5月	624	659	94.7	321	303	105.9	945	962	98.2
R4年6月	624	631	98.9	326	296	110.1	950	927	102.5
R4年7月	(615)	600	102.5	(340)	301	113.0	(955)	901	106.0
R4年8月	(610)	583	104.6	(350)	308	113.6	(960)	891	107.7

※()は見通し

※()は見通し